

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 西尾 環・堀田秀和 所属: 熊本市立楡木小学校 記録日: 2017年2月7日

キーワード:

## 【対象児の情報】

### 1 学年

小学6年生の男児(特別支援学級在籍・6年通常学級と交流)

### 2 障害名

A児: 知的障がいを伴う自閉症、注意欠陥・多動性障がい (ADHD)

### 3 障害と困難の内容

- ・図形や構造など、空間認知に難がある。→形を表現することが難しい。
- ・文字の理解や音のつながりが不十分である。→書いていることの意味が他者に伝わらない。
- ・文字の習得や、描画力もかなり不十分である。→交流学級の中でも個別の指導や支援が必要。
- ・語彙が少なく言葉の意味を十分捉えられず、情報の共有化や話題の焦点化に難がある。→同級生とコミュニケーションをうまくとれない場合がある。

## 【活動目的】

### 1 当初のねらい

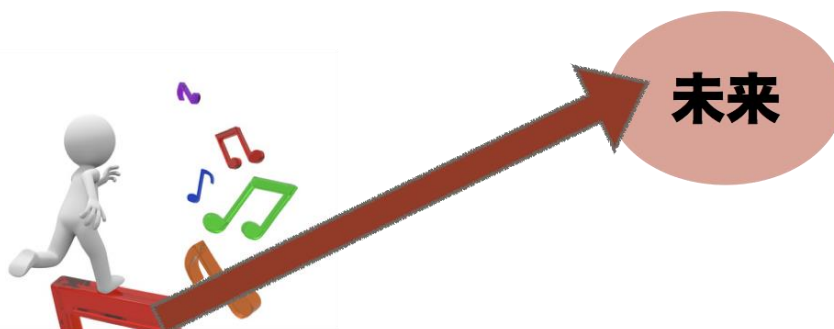
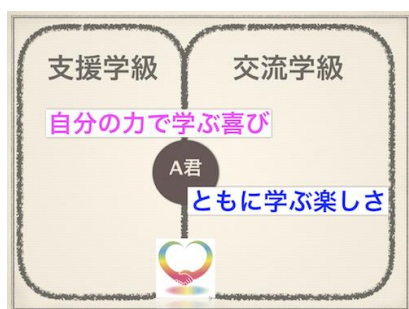
- (1) 「書く力」「絵に表す力」を身につけ、それらを生かして他者に、わかりやすく考えや思いを伝えられるようになる。



- (2) 意欲を持って授業に参加し、自分の学習の伸びを意識したり、同級生と共に楽しく学んだりすることで、学ぶ喜びや楽しさを感じる。



- (3) 特別支援学級及び交流学級での「学び」が、将来の「生きる力」へ、つながるようにする。



## 2 実施期間

2016年 5月11日~12月22日

## 3 実施者及び対象児との関係

西尾 環 (交流学級担任=研究者) 堀田 秀和 (支援学級担当=研究協力者)

## 【活動内容と対象児(群)の変化】

### 1 対象児と交流学級の事前の状況

A 児は、特別支援学級に在籍し、言葉を正しく発したり、文章を正確に書いたりすることが苦手だった。漢字力は一年生程度。平仮名、カタカナも不完全だった。また、絵も形を十分に捉えることができなかった。

通常学級と数多くの教科等で交流を行っていたが、その場での学習は、学力の定着を目指したものは少なかった。交流学級における理科や音楽、体育などで活動はできるが、ノートは十分に取れなかった。図画工作においても活動は好むが、豊かな表現はできていなかった。

さらに、交流学級の児童とのかかわり合いはあるが、良いコミュニケーションができていたとは言い難い状況があった。それは、対象児、交流学級それぞれに課題があった。

A 児自身の力として、語彙が少ないこと、相手の言葉の意味を十分捉えられないこと、発音がはっきりしないことなどの状況があった。さらに自分の思いを表現しようとする一方で、相手の気持ちを考える点は弱かった。一方、交流学級は、6年進級時に、クラス替えがあり、4月に新たな集団としてスタートした。A 児は、交流学級の一人として過ごすことになった。しかし、4月に大きな地震が起こって精神的に不安定な子どももいたこと、4月半ばから学校が3週間休校となって、学級づくりが十分にできなかったことも影響し、交流学級自体にも課題が山積みであった。

### 2 iPad 活用と連携の必要性

対象児童の実態を踏まえ、活動目的を達成するために、どうすべきか担任二人で協議し、仮説を立てた。それが以下である。

(1) iPad(タブレット)及び様々なアプリを、A 児が自ら活用することで、文章力や語彙力が高まり、学習の喜びを感じるであろう。それは以下のような理由による。

- ・iPad のキーボードは、50音表を用いて打ち込むことで文字の想起がしやすい。
- ・iPad で文字を打つと、予測変換で、うろ覚えの漢字も使える。
- ・iPad では、漢字や国語のアプリが数多くあり、自分で良いものを選び、自ら学ぶことができる。
- ・タブレットで使うタッチペンは鉛筆と比べ摩擦抵抗が少なく、文字を書くことへの抵抗感が減る。

(2) iPad(タブレット) 及び効果的なアプリを、A 児が支援学級や交流学級で共通して活用することで、空間認知や描画力が高まり、学ぶ喜びが高まるであろう。また、ともに学ぶ楽しさも沸き起こるだろう。理由は以下である。

- ・iPad は容易に写真を取り込み、自由自在に写真を拡大して、細かい部分にも着目することができる。
- ・iPad には、教師が提示して学級全体に見せた写真や絵画の画像、絵画の技法のビデオ映像などを複製して保存しておき、自分で自由に見たり活用したりできる。参考作品や友人の作品なども取り込んで、他者の描き方を意識してみることができる。
- ・iPad 対応のアプリの中には、写真に直接線を書き込んで、実際の形や場面をとらえることができるものがある。また、自分で自由に絵を描くアプリがあり、それを文章に保存したり、容易に貼り付けたりすることができる。

(3) 担任同士が連携を図り、共通した学習活動を行ったり、校内や保護者に対する啓発活動を推進すれば、A 児と交流学級の関わり合いが改善され、A 児は学ぶ楽しさを感じるであろう。



### 3 活動の具体的内容と児童の変化

#### (1) 特別支援学級にて

(国語)「メモ」アプリで毎日日記。4Wや3文を心がけて、文字のつながりや音の理解が高まるようにした。また、「小学生漢字」と「言葉の文」の指ドリルで、言葉と文の基礎を身につけるようにした。

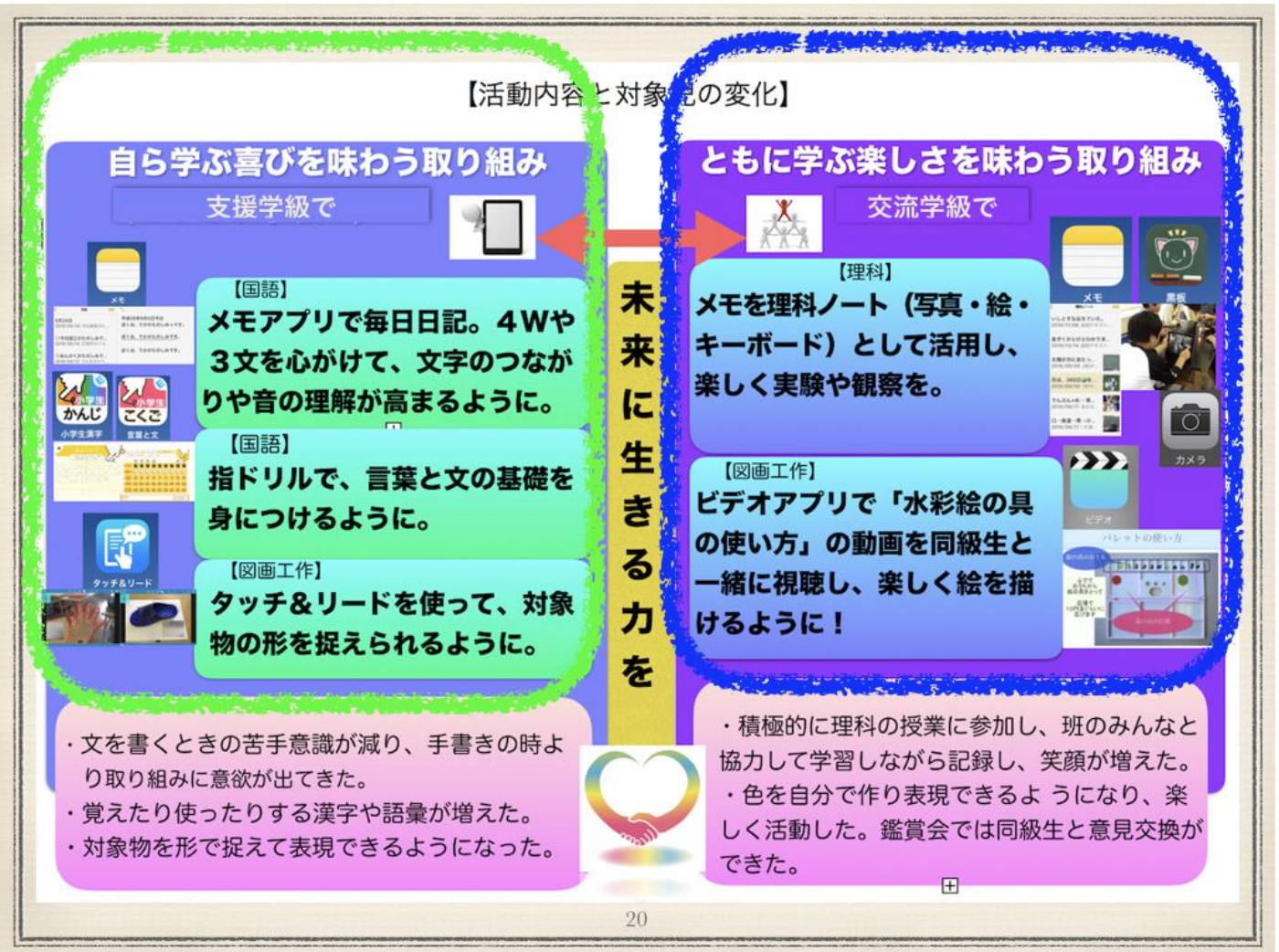
(図画工作)タッチ&リードを使って、対象物の形(靴)を捉えられるようにした。

#### (2) 交流学級にて

(図画工作)ビデオを活用して、色の使い方を学び、形も捉えながらスケッチを表せるようにした。

(理科)「メモ」を理科ノートとして活用した。キーボードで文章を打つことに加え、「カメラ」で写真を撮ったり「黒板」で絵を描いて「メモ」に貼り付けたりしながら、楽しく実験や観察の結果を記録した。

#### (3) 活動の全体像と児童の変化



・文を書くときの苦手意識が減り、手書きの時より取り組みに意欲が出てきた。

・覚えたり使ったりする漢字や語彙が増えた。

・対象物を形で捉えて表現できるようになった。

・積極的に理科の授業に参加し、班のみんなと協力して学習しながら記録し、笑顔が増えた。

・色を自分で作り表現できるようになり、楽しく活動した。鑑賞会では同級生と意見交換ができた。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### 1 主観的気づき

- (1) iPad やアプリを使った学習で、A 児は意欲が高まり、文章力、語彙力、空間認知力の定着に効果があった。
- (2) iPad をノートやスケッチブックとして、アプリを活用しながら、支援学級・交流学級において活用したことで、自分なりに楽しく学習に参加でき、理科や図工を好きになった。表現力も高まった。
- (3) 教師同士の連携を強め、啓発活動が行われたことで、A 児と交流学級同級生との人間関係も、改善の方向に向かっている。

### 2 エビデンス(具体的数値など)

#### (1) 文章力や語彙力の高まりについて

支援学級で、「メモ」を使って、日記を書く(打つ)学習活動を継続的に行った。

- ①自分で日記を打つ
- ②それを教師が読んだものを聞いて打ち変える
- ③さらに教師が打ち込んだ文章を見て打ち直す。

その中で、50 音表を用いて打ち込んだり、予測変換を活用したりすることで、文字や言葉の想起が早くなった。教師に「どんな漢字？」と尋ねながら打つ姿も出てきて、漢字を多く使うようになった。鉛筆で書くより、かなり速く文章に表せるようになった。また、少しずつ文章に正確さが増してきている。指ドリルの漢字・言葉と文のドリルの活用もプラス効果。

活動例1 メモアプリの活用 (こすもす学級で)

【国語】  
メモアプリで毎日日記。4Wや3文を心がけて、文字のつながりや音の理解が高まるように。

①自分で日記を打つ  
②それを教師が読んだものを聞いて打ち変える  
③さらに教師が打ち込んだ文章を見て打ち直す

意欲の高まり  
語彙や文章量の増加

文章表現の変容 (メモ日記の②段階の比較)

5月  
5月25日  
きょうぼくのたんじがたんしんびすごくうれしかったん

12月  
昨日九重夢大吊橋に行きました。高かったです。山がって高いかったです。

#### (2) 空間認知能力の高まりについて

タッチアンドリードを活用して、写真に直接線を書き込み、それぞれの物体を捉えられるようになった。線の色を変えられることが、形を捉えやすくした。支援学級での形の捉え直しや、交流学級での色作りのビデオ視聴により、「靴」の絵が完成し、A 児は喜んだ。また、秋の「思い出の場所、お気に入りの場所」のスケッチも楽しく活動した。自分の iPad で動画を何度も見て、着色の方法をさらに学んだ。教室で一緒に絵を描くと、級友の絵を見て参考にした。アプリを活用しながら作品が出来上がった。

タッチ&リード、ビデオの活用 (こすもす)

【図画工作】(スキルの学習)  
タッチ&リードを使って、対象物の形を捉えられるように。

タッチ&リード、ビデオの活用 (6の2)

【図画工作】(絵画表現の学習)  
「私の靴」「思い出の場所を描こう」で、タッチ&リードや、ビデオ「水彩絵の具の使い方」の動画を同級生と一緒に視聴して、楽しく描く。

・学級の一人としてともに絵を描き上げ、鑑賞しあった楽しさ

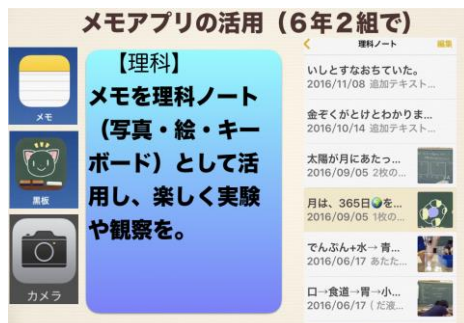
11月  
思い出の場所

【11月のメモ日記】  
今日ぼくは園工がたのしみです。思い出の場所がたのしみです。

【12月の完成の「思い出の保健室」】

### (3)「メモ」「黒板」「カメラ」を活用した理科ノートの変化

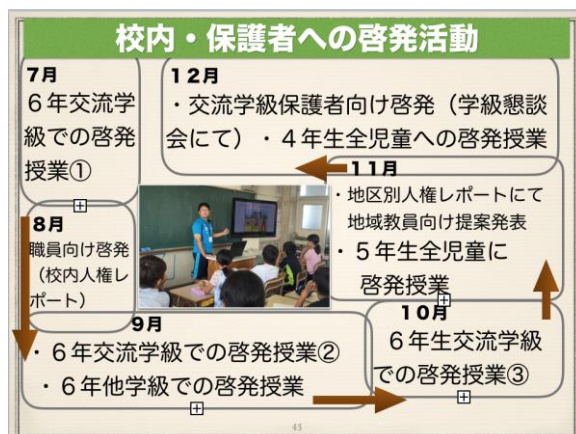
理科の時間における結果や気づきを記録・表現するために、活用した「メモ」アプリ活用した。交流学級の中での活用である。最初は短くわかりにくい文章だったり、写真のみだったりした。しかし時間が経つにつれ、内容的に間違えてしまうことはまだあるが、次第に主体的に黒板アプリを使って記録したり、図で記録したりするようになった。実験や観察のたびに、自分で iPad を手にして表現方法を選び、文章との組み合わせに工夫が見られるようになってきた。理科の授業がある日のメモ日記に、「理科が楽しい」の言葉が出てきた。



### (4)同級生との関わり合いの改善

同級生との関わりがうまくいかず、「クラスは好き。でも、行きたくない」と言うことがあった。それでも休み時間になると、全員遊びに参加して楽しく活動した。

支援学級担任による啓発活動や、交流学級担任によるほめ合う活動などを取り入れたこともあり、A 児と同級生の関係は改善してきた。理科のグループでは協力して実験や観察をしながら、A 児を支援する同級生の姿もあった。



### 3 その他エピソード

交流学級の連続長縄で A 児と仲の良い児童が後ろからリズムをとって楽しく跳ぶなど良い関係が出てきた。交流学級における人間関係がわずかずつではあるが好転している。

また、以前 A 児の iPad 活用不満をこぼした同級生が、最近 A 児に正しい記録結果の記入をしてくれたり、A 児が理科室に忘れていった iPad を支援学級に届けてくれたりした。さらに、交流学級の図工の時間に、同級生の中にも自分の力で思考表現ができずに、教師個人の iPad の活用を願い出て、その効果に納得している者もいた。

これからの残りの日々で、さらに学ぶ喜びや学ぶ楽しさが高まることを期待したい。

